

例えばカッコウと鳴くのと、カッコーとこう鳴くのとでは、聞いていても大分違うでしょう。」「全然違わないね。」「ではあなたにはわからないんです。私たちの仲間ならカッコウと一万回言えば、一万回みんな違うんです。」「ああ、そうかい。そんなにわかっているなら、何もオレのところへ来なくてもいいではないか。」「ところが私はドレミファを正確にやりたいんです」「カッコウにドレミファもくそもあるか」「いえ外国へ行く前にぜひ覚えたいんです。」「外国もくそもあるか。」「先生どうかドレミファを教えてください。私は先生について歌いますから。」「うるさいなあ。そら三回だけひいてやるから、それがすんだらさっさと帰るんだぞ。」ゴーシュはセロを取り上げて、ボロンボロンと糸を合わせてドレミファソラシドとひきました。するとカッコウは慌てて羽をバタバタして言いました。「違います、違います。そんなのではありません。」「うるさいなあ。では、お前がやってごらん。」「こうですよ。」カッコウは体を前に曲げてしばらく構えてから、「カッコウ」と1度鳴きました。「何だい。それがドレミファかい。お前たちに

は、それではドレミファも第六交響曲も、同じなんだな。」「それは違います。」「どう違うんだ。」「難しいのはこれをたくさん続けたのがあるんです」「つまりこうだろう。」セロ弾きはまたセロをとって、カッコウ、カッコウ、カッコウと何度も続けてひきました。するとカッコウは大変喜んで途中から、カッコウ